

## 虎穴に入って虎児を得よう

卒業式の時もそうでしたが、一昨日の入学式に来賓として来てくださった令和二年度のPTA会長のK氏の祝辞は、実に見事でした。話す内容をメモにしたためてあるとは言え、それほど目と目を落とさず、抑揚や強弱のある話しぶりでは話せないはずだと思って、式が終わってから私は尋ねてみました。

「お仕事で、人前で話すことがおありなのですか。すごく上手に話をされるので。」

「いいえ、全くそんなことはありません。PTA会長を引き受けてから話すようになりました。それも今日で終わりです。」  
大役を無事終えて、ほっとした表情で彼はこう答えました。そして、真剣な表情に変わり、次のように続けました。

「PTA本部役員として務めた二年間は、本当にいい経験でした。特に今年は、いろいろな場面で話をさせてもらいましたが、いい勉強になりました。これからは人前で話をするのではないでしょう。でも、この経験があれば、万が一話す時があってもさほど抵抗はないと思います。子どもの中にはそんなことは思ってもみませんでした。この年になると、（若いころに）もっと経験しておけばよかったですよ。」

K氏はしみじみと語りました。肩の荷が下りたからではなく、人前で堂々と話せる自分に気付き、自信がもてたからだとは思いました。いくつになっても、自分の可能性に気付き、自信がもてるようになることは素晴らしいことです。私も「もう年だから」などと言いつつ、いろいろなことに挑戦してみようと思います。

令和三年度の生徒会執行部、専門委員長は昨年度のうちに決まっています。やがて学級のリーダーたちも決まることでしょう。そういう先頭に立つ仲間について、周りの人たちはどのように考えているのでしょうか。

「人前で話す機会が多いから大変だなあ」「いつも話すことを考えなければならぬので忙しそうだ」などと、消極的に考えている人がいるかもしれません。実際はその逆なのです。大変であるし忙しくもありますが、その分、自分にとってプラスになっている部分が多々あると私は思います。

人前で話す経験を積むから、抵抗なく話すことができるという力が育ちます。いきなり話さなければならぬこともあるので、アドリブ力も自然とつきます。つまり、大変さや忙しさを引き換えに、飛び込まなければ身に付かない貴重な力を獲得しているわけです。

「虎穴に入らずんば、虎児を得ず」ということわざがあるように、怖気づいていたら、何も手に入らないですからね。自分の可能性を発見してみてくださいはどうかね。（四月九日 記）